【学力向上フロンティアスクール中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	福　　井　　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	大野市有終東小学校								
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	２	１４	１７
児童数	５７	５３	６１	５８	５３	５７	６	３４５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自ら求め創り出す児童をめざして

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科

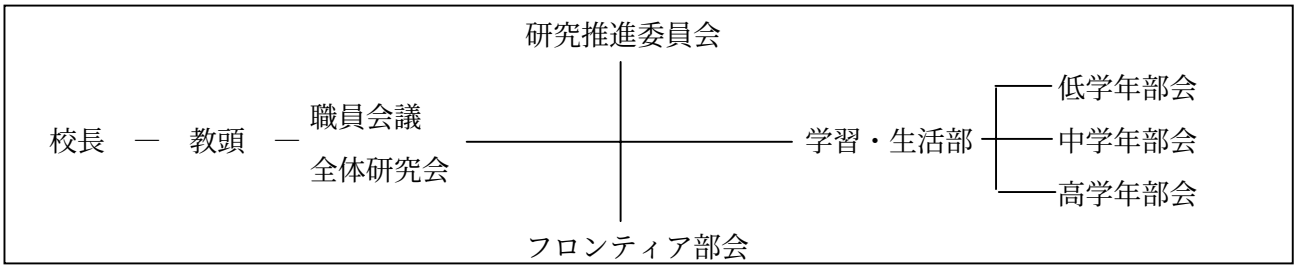
３年生～６年生：算数科と国語科で少人数指導
　児童の発達段階および理解の状況に差が出やすい教科であるため
１年生～２年生：算数科と国語科でＴ・Ｔ指導
　児童の発達段階を考えたため

（２）年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ　　一人ひとりが確かな学力を身に付けるための指導法と指導体制について ○研究の見通し（仮説） これまでの指導法や指導体制を見直し改善をすることで、児童一人ひとりが確かな学力を身につけていく。 ○研究の内容・方法 １．少人数指導とＴ・Ｔ指導によるきめ細やかな指導を中心に、個に応じた指導を行う。 少人数指導：３年生から６年生の算数科と国語科を中心に行う。 コース（習熟度）別学習：３年生から６年生の算数科で、児童の選択により３コースに分かれて授業を行う。 Ｔ・Ｔ指導：１年生と２年生の算数科と国語科を中心に行う。 ２．基礎学力定着のための指導方法や教材・教具の開発を行う。 児童の興味や関心をひき、自主的に学習に取り組むことができるような教材・教具の開発に努める。 ３．計算と漢字を中心においた基礎学力の定着を図る。

	学年に応じた計算と漢字のマニュアルを作る。 ４．評価方法を追求する。 計算と漢字の定着状況を把握するための方法を工夫する。
平成16年度	○テーマ　一人ひとりが確かな学力を身に付けるための指導法と指導体制について ○研究の見通し（仮説） 指導法や指導体制を見直し改善をするだけでなく、絶えず多方面からの評価を加えることでより客観的な評価に結び付けていく。 ○研究の内容・方法 １．少人数指導とＴ・Ｔ指導によるきめ細やかな指導を中心に、個に応じた指導を行う。 少人数指導は、３年生から６年生の算数科と国語科を中心に行う。 コース（習熟度）別学習を算数科において取り入れる。 Ｔ・Ｔ指導は、１年生から２年生の算数科と国語科を中心に行う。 ２．基礎学力定着のための指導方法や教材・教具の開発を行う。 児童の興味や関心をひき、自主的に学習に取り組むことができるような教材・教具の開発に努める。 ３．評価方法を追求する。 算数と国語の定着状況を把握するための、より実践的な評価方法を工夫する。 ４．計算と漢字を中心においた基礎学力の定着を図る。 学年に応じた計算と漢字のマニュアルを作る。

（３）研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果および今後の課題

１．研究の成果

（１）少人数指導とＴ・Ｔ指導によるきめ細やかな指導を中心に、個に応じた指導の実施

①少人数指導：３年生から６年生の算数科と国語科で２クラスを３クラスに分けて行った。
クラス分けの方法は、発達段階を考慮して中学年（３・４年生）では、学級を核としたクラス編成とし、高学年（５・６年生）では、学年を核としたクラス編成とした。

②コース（習熟度）別学習：算数科において取り入れて行う。

コース（習熟度）別学習を取り入れる時のパターンとして

ア．単元のまとめの段階で

イ．単元の途中でコースガイダンスを行って

ウ．単元全体を通して

という３つのパターンを実施し、それぞれのパターンに適した単元の見直しを図ることができた。

③Ｔ・Ｔ指導：

ア．１年生と２年生の算数科と国語科において、より効果的な指導法を追求して行うことができた。

イ．算数科において、メイン（ＭＴ）・サブ（ＳＴ）による個別指導を活かした指導を行うことができた。

ウ．かけ算の意味の理解を深める時間において、コース（習熟度）別学習を取り入れて行うことができた。

（２）基礎学力定着のための指導方法や教材・教具の開発

①算数科において、学年ごとに少人数指導、コース（習熟度）別学習、Ｔ・Ｔ指導における指導方法や習熟の程度に応じた単元展開と指導体制を見直すことができた。

②児童の中に、自分で考えて次に進んでいこうとする意欲が見られるようになってきた。

③教師自身に、自分の手で教材を作って授業に臨もうという気持ちが強く生まれてきた。

（３）計算と漢字を中心においた基礎学力の定着

①校時表の中にスキルタイムを設定し、全校一斉に実施した。

※スキルタイム・・・朝の会の後、１０分間

月曜日：読書　　火・木曜日：漢字　　水・金曜日：計算

漢字：低学年の問題からスタートし、合格した者はどんどん学年を進んでプリントを行っていく。

計算：学年に応じ進路にあわせた計算を行っていく。

読書：身近なところに本を置き、自分の好きな分野の本を読んでいく。（心育て）

②学年や進度の状況により、授業の最初に５分間テスト行う。・・・漢字、計算

③スキルタイムにおける漢字のくり返し学習により、習った漢字を使って文章を書くという意識が見られるようになってきた。

④５年生・６年生における漢字・計算のテストより

下記の表より、漢字については着実に力がついていると思われる。

計算についてはまだ伸びる余地があると思われる。

		漢　　字（１００点満点）		計　　算（５０点満点）	
		１　学　期	２　学　期	１　学　期	２　学　期
５年生	Ａコース	６４	７４	４５	４５
	Ｂコース	５３	６０	４３	４３
	Ｃコース	３８	４４	３８	４１
６年生	Ａコース	６２	７１	４４	４９
	Ｂコース	８５	８７	４５	４８
	Ｃコース	７３	８０	４６	４５

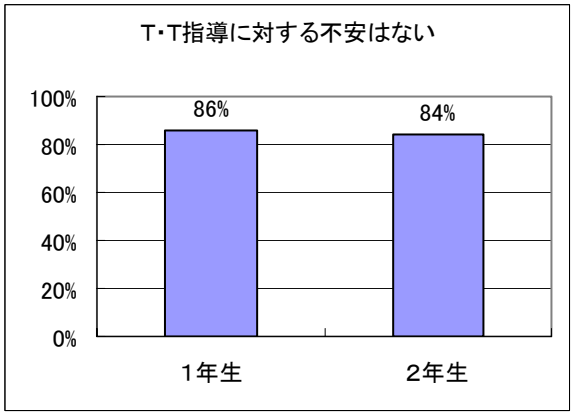
※Ａ・Ｂ・Ｃコースは、コース（習熟度）別学習によるクラスを表す。

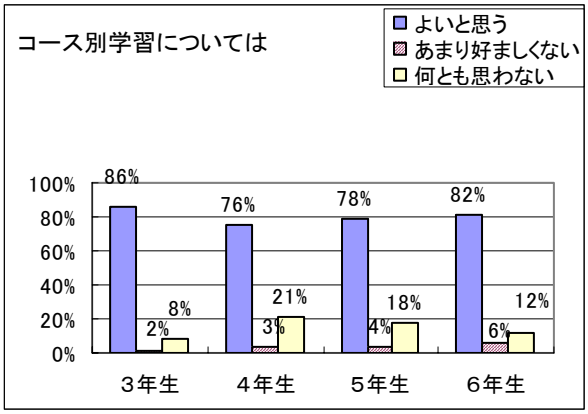
漢字・計算のテスト結果は、各学期のまとめのテストの平均点を示す。

（４）評価方法の追求

国語科・算数科において、一部の単元ではあるが、学習活動の流れや児童の反応等を記録にとどめ、一時間ごとの評価を行うことで、指導の見直しを図ることができた。

（５）保護者に対するアンケートの実施





Ｔ・Ｔ指導やコース（習熟度）別学習に対する保護者のアンケート結果からは、学校側が心配していたような不安は少なく、Ｔ・Ｔ指導やコース（習熟度）別学習のいずれについても、実施については保護者からの理解を得た。

（６）児童に対するアンケートの実施（５年生児童５３名）

・１１月に行った児童への「コース（習熟度）別学習をまたやりたいか」という質問に対し、右記のように４６人（８７％）の児童が「またやってみたい」と答えている。

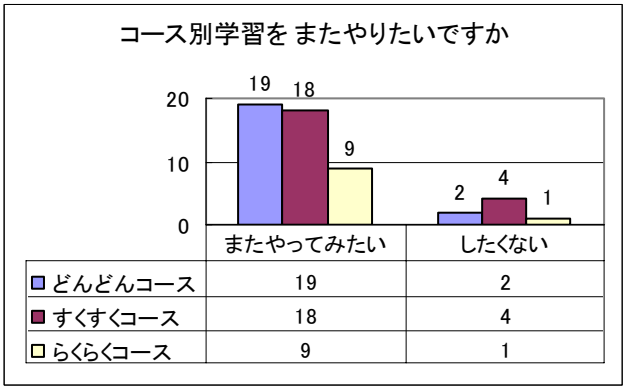
その理由としては、

①自分のペースで学習できた。

②人数も少ないので質問もしやすいし、自分の意見も言いやすい。

③自分にあったコースで学習できる。

反面「したくない」と答えた児童の理由



としては、

①自分の選んだコースが合っていなかった。

②授業の進み方が早すぎた。

という答えがあったが、全体的にコース（習熟度）別学習に対してはよい感触を得ているようである。

また、他の学年においても同じような結果を得ている。

２．今後の課題

（１）少人数指導とＴ・Ｔ指導によるきめ細やかな指導を中心に、個に応じた指導の実施

①算数科では、学年ごとに少人数指導とコース（習熟度）別学習そしてＴ・Ｔ指導に適した単元の見直しを図ってきたが、まだまだ不十分な点も多いため再度検討を加える必要がある。

②発展的なコースを選択した児童の能力を、より伸ばすための指導について考えていく必要がある。

（２）基礎学力定着のための指導方法や教材・教具の開発

①児童の興味や関心をひき、自主的に学習に取り組むことができるような教材・教具の開発に更に努める必要がある。

②国語科における音読・視写・漢字学習の指導についても、力を注いでいく必要がある。

（３）計算と漢字を中心においた基礎学力の定着

①漢字では、テストの時だけでなく、普段の学習で既習の漢字を使っていこうとする姿勢をさらに高めていく必要がある。

②基礎学力の定着のためにスキルタイムを実施してきたが、より効果的なものにするために、内容や方法について見直す必要がある。

（４）評価方法の追求

①個に応じた指導を意識した、評価を工夫する必要がある。

②計算と漢字の定着状況を把握するための方法を工夫する必要がある。

（５）保護者への啓発

・学校・学年・学級からの便りで、Ｔ・Ｔ指導、少人数指導、コース（習熟度）別学習を実施していることを知らせているが、知らないという保護者がかなりおり、今まで以上に啓発を図る必要がある。そして、学習について親子で話をする機会がこれまで以上に増えてくることを願いたい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

本校児童の算数科における学力を把握するために、下記のテストを実施した。

平成１５年２学期	算数科において、コース（習熟度）別学習を実施した後にテストを実施し、考察を行う。
平成１５年１１月	算数科において、学年ごとに昨年度の学力テストを実施し、領域・観点ごとの考察を行う。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成１６年2月３日（火）	公開授業　５年生　算数科　「割合」 ・コース（習熟度）別学習を取り入れた授業 ・２クラス５３人を３コースに分けて行う
平成１６年１０月下旬	公開授業 ＴＴ・少人数学習・コース（習熟度）別学習を取り入れた授業

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　☑１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ・Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　☑国語　□社会　☑算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　□有　☑無